

大名みえ子です

ご相談はお気軽にお寄せください

〒319-1112

東海村村松2401-2

oona_toukai@yahoo.co.jp

3月議会一般質問から

JCO臨界事故から10年、住民の安全願って何を考えるか

前号に引き続き、標記の質問にたいする村長の答弁をご報告します

村長：（先週の続きです。言葉遣いは、紙面の都合上、「である調」にしました）

そのようなことから安全確保の一番は、やはり住民が関心を持つことであり住民が知ることと考える。その視点から事故の現場保存を私自身は考えたが成し遂げられなかった。しかし茨城県の原子力科学館に、経済産業省の資金と協力により模型をつくって展示することはできた。何よりも原子力防災訓練を続けることで、原子力について住民が関心を持っているし、知識を持とうとしている、そのような目があれば、私はこれからも大きな原子力事故は防げるのではないかと考えている。

もちろん原子力事業者には安全確保をしっかりとやっていただきたい。また原子力安全・保安院等の規制機関が十分な能力を持つ必要があると思う。そして住民も原子力の安全問題について強い関心を持っているなど、これらが相まった社会体制だとか文化だとかそういうものが必要で、その先頭に東海村は立てる条件は持っているとは私は思っている。

私が、議員の皆さん方のご理解をぜひとも得たいと思っているのは、規制機関についてで、アメリカにはNRCがあるが、従来3,000名と言われていたが、最近また1,000名ほど増やしたと聞いている。日本の安全・保安院は370名ぐらいと、まだ手薄な規模です。

もちろん日本の場合、安全・保安院だけでやっているのではなく、原子力機構の安全研究部門や、原子力技術基盤機構、原子力安全基盤機構など、それらの複合体としてやっているわけだが、最近の話を見ると、フランスでもそれは推進と規制というものは分離したということです。IAEAからは日本もその体制を、と言われていたということだが、そういう点では先ほど述べたように原子力機構の安全研究部門、それから原子力技術基盤機構、原子力安全基盤機構、たくさん基盤機構があるが、それらと安全・保安院が合体して、いわゆる資源エネルギー庁から分離するようにする。その上で私は、「東海村できっちりやってください、東海村にその機関を持ってきてやってくださいよ」というようなこと言っているのだが、そのようなことを議員の皆さん方もご協力してくださると私も心強いんです。以上です」。

大名みえ子の

ひとりごと

4月11日の土曜日、桜満開の阿漕が浦公園で、産廃反対住民の会のみなさんと、桜まつり参加者の方々に、裁判所に提出する署名のお願いに行ってきました。10時ぐらいからはじめたのですが、上着いらすのいい好天で、時折吹く風に、花びらが雪のように舞い降り、「ウワー、ステキ！」。昼食は、交代で「二・八そばの会」のみなさんの手打ちそばをいただきました。「本当に美味しい！」。午後は風が強くなったので2時ぐらいで引き上げましたが、署名は213筆、カンパ...円でした。焼却施設で使用した水を蒸発させる計画に怒って署名をしてくださった方もいました。ありがとうございました。

ところで、我が家の迷い「烏骨鶏」ですが、この時期また卵をたくさん産んで温めに入っています。本当に聞きたいです。「あなたは何歳？何て強いのか？」。今回は、低いブロック塀を超えて隣家の敷地においてあった雑草が少し入った肥料袋の中で、10個ぐらい温めています。雨風をしのぎ、卵を敵から守る場所として選んだのでしょうか。But 相変わらず鶏小屋を提供しないことは罪になるのでしょうか。